

2012/12/25

日本料理店 にて

上海に来て一ヶ月も過ぎれば日本料理も恋しくなり最近は休日になると日本料理店に行き刺身とかすき焼きに舌鼓を打つと日本料理の美味しさを再認識します。

その日本料理店で驚くことがありました。

それは、上海の日本料理店でも高級な店ほど中国人の客が多く満席であり 10 年前に中国の会社に来た時には考えられないことでした。

その頃の中国人の大半は、日本料理を食べたいけれども価格が高いので簡単には食べに行けなかったのですが最近の中国の人達は本当に裕福になっています。

今年 9 月の反日デモの際に日本料理店が壊されるトラブルが相次いだので日本料理店は今でも空いていて予約など必要ないと考え夕食がスタートする 5 時半に日本料理店に行ったのですが予約が一杯で 2 時間待ちとなり入れませんでした。

その店の予約表に書かれていた名前のお大半は中国人名で子供連れによる家族がどんどん入ってきて非常に驚きました。

又、昼食でも中国人の女性が子供連れの 2 人で日本料理の高級品を注文していて日本料理を食べるのは普通の事であり特別な記念日で日本料理店に行くという事ではありません。

この様な事から気がついたのですが、反日デモでの日本料理店破壊の標的は決して日本人だけでは無いと言うことです。

日本車の破壊行為も行われましたがその理由も全く同じ事だと思えます。

特に中国人が運転している日本車を壊し運転手の中国人に対しても暴行を加えているのですからターゲットは日本人だけでは無いと言うことは明らかです。

特に反日デモ参加者は、以前のレポートでも言いましたが低所得者層が大半で先頭に立って破壊行為とか略奪行為により逮捕されたのは全て失業者でした。

彼らの不平不満の根底にあるのは所得格差による自分の惨めさとどうしようも無い怒りで

あったと思います。

デモの参加者は、最初から声高に反日を叫ぶデモであったので日本が標的の一つであることは間違いありません。

しかし、それは表面的で有り根底には間違いなく知識層である中産階級から富裕層をターゲットにしていたと思われます。

特に数年前までは、低所得者層と同じレベルにいた中産階級の人達が車を持って高級料理である日本料理店に行きお金を自由に使っているのが我慢ならないので日本車を壊し日本料理店を壊しスーパーを壊すついでに略奪活動も行ったと思います。

日本を標的に導いたのは、胡錦濤前総書記であり野田佳彦前首相に尖閣諸島の国有化をしないように依頼したにも関わらず無視して国有化に踏み切った事への中国共産党から日本政府へのしっぺ返しです。

中国共産党は中国国民に対してこの問題の責任は全て日本政府にあると声明を出した事から分かるように、中国の低所得者層はデモで愛国無罪をスローガンにすれば何をしても刑罰に問われないと判断したと思います。

現実にはあれだけ多くの人間が無茶苦茶しても悪質な 29 名だけの逮捕者だけであった事と公安の人間も制服を脱いでデモに参加するという情報もありますから中国政府は最初から日本関係の物には何をしても構わないという一種のガス抜きだったと思います。

但し、反日デモから中国共産党体制への批判に発展しそうな段階で中国政府はデモにストップを掛けようと思っていたと思われます。

既に反日デモから 3 ヶ月も経つと日本車の売れ行きは徐々に回復してきてツイッターでも出来れば日本車の品質が高く優秀な車が欲しいと中国人は言っています。

9月に発生した反日デモは、ほぼ収束に向かう事は下記の理由で間違いのないことと思います。

1 日本車の売れ行き状況の回復。

2 日本料理店が繁盛している。

3 安倍政権の誕生で手強い相手であると考えているので下手な事は出来ない。

4 中国も新しい政権が誕生した事でデモでの破壊と略奪行為は世界からの評判が悪い。

5 米国が尖閣諸島は安保条約の枠内と宣言した。

上記の理由で今後中国の反日デモとか暴力行為はほぼ収まると思います。

但し、尖閣諸島領海域への中国船と飛行機の領海侵犯は続きますので安倍政権による上手な外交手腕が必要です。

中国政府としては、尖閣諸島は日本により実効支配されているので領海侵犯を続けなければ尖閣諸島の領土問題を放棄したと日本に思われるので続けます。

更に大きなプレッシャーは、下手に尖閣諸島の領有権を放棄すれば背後から中国国民に弱腰外交と言われ共産党体制が一気に崩壊する危機に見舞われる恐れがあるので中国政府としては領海侵犯を続けざるを得ないと思います。